

業務実績報告書

提出日 2020 年 1 月 21 日

1. 職名・氏名 准教授 長谷川小眞子

2. 学位 学位 修士 専門分野 看護学 授与機関 福井県立大学 授与年月 2005 年 3 月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 精神保健 I (2 単位 毎年開講) 1 年前期 (2017～2019 年度) オムニバス講義	
② 内容・ねらい 保健医療福祉の専門職に必要な精神保健に関する基礎知識を学習し、各専門領域の学習につなげることを目的とする。 1.精神の発達と機能について理解できる。 2.ストレスとその反応について理解できる。 3.社会における精神保健の現状と課題、および対策について理解できる。 4.自分自身のメンタルヘルスの維持・増進に活用することができる。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 本科目は保健医療福祉の専門職に必要な精神保健に関する基礎知識を学習し、各専門領域の学習につなげることを目標としている。日常生活での体験や社会で起こっている精神保健に関する出来事を教材として取り上げ、看護学科・社会福祉学科の1年次生が精神保健に関する問題(虐待、自殺、依存症等)を個別学習⇒グループワーク⇒発表・全体討論する授業展開を行った。また、授業に関する感想の記述をもとに教授方法の調整を行った。	
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 精神看護学概論 (1 単位 毎年開講) 2 年前期 (2017～2019 年度)	
② 内容・ねらい 精神看護学の意義・目的・機能および精神看護学が取り扱う精神健康、精神障害の意味を理解する。これを基盤として、様々な場や状況における精神看護学の展開に必要な基礎知識を理解する。 1.精神看護の意義・目的・機能が理解できる。 2.精神看護の基本的な技法が理解できる。 3.精神看護学の発展の経過を理解し今後の精神看護学の発展を考察できる。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 精神看護学の目的・目標、機能などについて初学者にも理解しやすいように、こころの健康やこころの元気を支える看護と説明することを通し、精神看護学の概要について教授した。	
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 精神看護学 (2 単位 毎年開講) 2 年後期 (2017～2019 年度)	
② 内容・ねらい 精神看護実践に向けた基本的知識の獲得を狙いとする。こころの健康・不健康の捉え方、精神障害の病理的特徴及び治療経過についての知識を得る。障害が生活に及ぼす影響を理解し、具体的な看護実践の展開に必要な知識を得る。 また、精神看護の展開の基礎的知識となる、精神疾患、精神科における各種検査や各種治療法(精神療法、精神科薬物療法など)および精神障害に対する心理社会的リハビリテーションの概要などを理解する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義では、主要な精神疾患に関して、病因・症状・診断・具体的な看護の展開例を示してい	

る。幻聴の疑似体験など適宜、視聴覚教材等を使用しながら、精神疾患を患うことの意味や生活のしづらさを学生が理解しやすいよう、講義内容を構築している。また、内容毎に確認テストを実施し、精神看護を实践するうえで基盤となる基礎知識の習得や看護実践の概要理解の定着に努めている。2019年度は受講生である2年生に対し、3年生が実習体験での学び、4年生が精神看護発展セミナーでの学びに関する内容を講義する企画を実施した。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
精神看護学演習 (1単位) 3年前期 (2017~2019年度) オムニバス講義

② 内容・ねらい
精神の健康問題を持つ人に対して、治療的関係性の活用を基盤とした精神看護学の知識と技術を学修する。また、精神の健康問題を持つ人に対する看護展開の方法について、精神看護の重要な技術である治療的関係性を活用した看護展開と、対象者のセルフケアの再構築に向けて、対象者の持てる力を見つけ伸ばし育てることに焦点を当てた看護過程の展開方法を学ぶ。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
対象者のセルフケアおよびストレスの回復に向けた看護実践に関しては、特別講義として、精神障害者の地域生活定着支援を実践している専門家、および専門看護師を招き、「精神障害者の生活の構築」のための援助の在り方を考察できるよう工夫している。また、看護過程の展開については、主要な精神疾患の紙上事例を設定し、グループワークおよび個人学習を組み合わせながら、学生が具体的な看護援助を实践できるよう、講義内容を構築している。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
精神看護発展セミナー (1単位) 4年前期 (2018~2019年度)

② 内容・ねらい
既習の精神看護学関連の学習内容を踏まえた上で、精神障害者の生活を支援する看護実践のあり方や精神看護の専門性とは何かを探求する。

具体的には、今日、精神看護学領域において注目されている事柄(精神障害者の疾病との付き合い方、精神障害者の退院支援や地域生活支援、家族支援など)から、学生自身が問題意識を持ったテーマを選択し、テーマに関連する文献検討を行う。そして、実際の現場に出向き、対象者や看護職者との意見交換等から得られた各自の学びをプレゼンテーションし、グループメンバーによるディスカッションを通して学びを深める。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
セミナーでは、学生の主体性・自主性を最大限に尊重した。「課題設定」では、自ら探求したい「テーマ」を設定し、文献検討を行い、精神障害者の生活を支援する看護実践のあり方を考察した。また、履修学生には成果発表の場として、3年生の「精神看護学演習」および2年生の「精神看護学」の講義時間内に口演の場を設けた。3年生からの感想をフィードバックするなど、今後の学習意欲に繋がる支援を行っている。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
精神看護学実習 (2単位) 3年生 (2017~2019年度)

② 内容・ねらい
実習体験を通して、精神の健康の維持・増進、回復するために必要な知識・技術・態度を統合し、精神に障害を持つ人に対する看護実践の基礎的能力を養うことを目的とする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
実習を通して、初めて精神障害者と関わる学生がほとんどであり、不安や緊張が強いため、特に学生の反応に留意しながら、実習目標が達成できるよう指導にあたっている。
患者の精神症状の理解に関しては、患者の言動の意味を学生と共に考え、病的で日常生活が障害されている部分を支持しながら、患者の強みを生かして、患者が主体的に生活できる力を身につけるために必要な看護実践を指導している。

実習では、学生自身が治療環境としての自己を振り返らざるを得ない機会があり、学生にとっては「自分を見つめる」辛い作業になることもある。このような時は、学生が自分の感情や

価値観に気づけた事を支持し、自己の課題（自己の感情表出や対象者の気持ちをくみ取る等）を明確にし、課題達成ができるよう、指導にあたっている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
卒業研究：精神看護学（3単位）4年生（2017～2019年度）

② 内容・ねらい
科学的思考を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につけることを目的とする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
研究手順や文献検索についての既習状況の確認を行いながら、学生の主体性を尊重すること、学生自らが研究プロセスを踏んでいると自覚できること、そのプロセスを的確に表現し、論文としてまとめることができるよう、サポートしている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
精神健康学特論（2単位）研究科共通科目 1年前期（2018年度）オムニバス講義 ※隔年開講

② 内容・ねらい
こころの健康な状態と病気の状態を理解し、その予防と治療・リハビリテーションについて学ぶ。メンタルヘルスの課題を抱えた対象者に、ケアやサポートを行ったり、またそれらを研究していく場合に必要となる主要な概念について学ぶ。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
精神保健における最新の基礎知識に関して、視聴覚教材等も活用しながら教授した。院生には「精神保健」に関する主要な課題やそれらの関連文献についてディスカッションを行い、院生にもプレゼンテーションを課しながら、精神的健康への支援者として、論理的思考が深まるような講義構築を行っている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
精神看護学特論（4単位）研究科看護学専攻 1年前期（2017年度）非常勤講師と共に担当

② 内容・ねらい
精神保健や精神看護に関する動向や理論、研究に向けた理解を深める。
精神科リハビリテーションと地域生活自立支援への現状と課題、看護の役割について考察する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
精神保健や精神看護学に関する主要な課題やそれらの関連文献についてディスカッションを行い、院生にもプレゼンテーションを課しながら、精神看護学への理解や論理的思考が深まるような講義構築を行っている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
精神看護学演習（2単位）研究科看護学専攻 1年後期（2017年度）非常勤講師と共に担当

② 内容・ねらい
精神看護学領域における文献検討を行うことで、精神の健康における看護の課題を研究レベルで探求する。また、研究課題を達成するための研究方法を学習し、自己の研究テーマを明確にし、研究計画書を作成する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
院生が自分の興味・関心、問題意識から研究テーマ・研究目的が明確にできる過程を重視した演習内容の構築を行っている。院生が主体的に意欲を持って取り組むことができるよう、自己の研究テーマに沿った多くの論文の精読を通して、文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーションの方法と論理的・科学的思考力が身につくよう、演習内容を工夫している。また、思考のプロセスを的確に表現し、研究計画書が作成できるようにサポートしている。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 精神看護学特別研究 (10 単位) 2 年通年 (2018 年度) 非常勤講師と共に担当
② 内容・ねらい 研究計画書に基づき、データ収集、分析、結果、考察等論文作成までの研究過程を展開する。特論、演習での学修内容を発展させ、精神保健および精神看護の質の向上に寄与できる課題に取り組み、研究論文を作成する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 院生が社会人であり、非常勤講師とともに、院生の都合に合わせて指導時間の設定を行った。院生自身が研究結果の意味を理解でき、考察が深められるような指導を行っている。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文
②著書
③学会報告等 ・訪問看護師のためのフィジカルアセスメント研修に必要な項目についての検討. 日本看護研究学会第45回学術集会 (2019年8月20日), 藤井徹也、山口直己、篠崎恵美子、栗田愛、 <u>長谷川小眞子</u> 、箕浦哲嗣、佐藤美紀、西尾亜里砂、中山和弘。
④その他の公表実績 1) 大森晶夫、橋本直子、 <u>長谷川小眞子</u> 、木村多佳子、田中悠二、川口めぐみ、田中孝典、木崎アンディー：依存症回復施設 福井 ARC (Addiction Rehabilitation Center) 開設後の利用状況調査. ふくいこころの華 福井県精神保健福祉協会、vol.38, 2017.
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など
<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人福井県看護協会開催 第 34 回福井県看護研究発表会 口演発表座長 (2017 年 9 月 9 日) ・北信越ブロック家族会福井大会 精神保健福祉研修大会 第 4 分科会司会 (2018 年 10 月 26 日) ・第 50 回 日本看護学会－精神看護－学術集会 教育講演座長 (2019 年 8 月 31 日) ・日本看護技術学会 第 18 回学術集会 キーセッション座長 (2019 年 9 月 8 日)
学会・分科会の開催運営
<ul style="list-style-type: none"> ・日本精神科看護協会 福井県支部看護研究発表会 論文査読委員 (2017 年 11 月 11 日)、(2018 年 11 月 10 日)、(2019 年 11 月 17 日) ・日本看護学会学術集会委員 (2018～2019 年) ・日本看護技術学会第 18 回学術集会 企画委員 (2018～2019 年)
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加
② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度科学研究費補助金 (研究代表者：豊橋創造大学教授 藤井徹也) 基盤研究(B)訪問看護師のための高度フィジカルアセスメント実践教育ツールの構築 分担金：100,000 円

- ・平成30年度科学研究費補助金（研究代表者：豊橋創造大学教授 藤井徹也）
基盤研究(B)訪問看護師のための高度フィジカルアセスメント実践教育ツールの構築
分担金：50,000円
- ・平成31年度科学研究費補助金（研究代表者：豊橋創造大学教授 藤井徹也）
基盤研究(B)訪問看護師のための高度フィジカルアセスメント実践教育ツールの構築
分担金：100,000円

(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体

①国・地方公共団体等の委員会・審議会

②国・地方公共団体等の調査受託等

③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加
「福井ARCを支援する会」運営会員（2017年～2019年）

④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動

⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等

1) 勝山市職員メンタルヘルス研修会講師（2019年度）
（2019年10月30日実施）

2) 勝山市職員心の健康相談室 相談員（2017～2019年）
（2017年度 計5回）（2018年度 計4回）（2019年度 計4回）

3) 公益財団法人福井県看護協会開催 「平成30度看護研究グループ指導」講師
（2018年4月～2019年3月）

4) 福井県精神保健福祉家族会連合会（福井県委託事業）講師 2017年3月15日開催
福井県家族会連合会 家族相談研修会 - 「相談」を受ける際の心構えと対応-

5) 一般社団法人日本精神科看護協会福井県支部研修 講師
精神科基礎研修 I 「精神科の歴史と法律 行動制限と処遇について」
（2017年7月7日開催、2018年7月14日開催、2019年8月3日）

⑥その他

・看護研究指導

2017年、2019年度 坂井市立三国病院 看護研究指導

講師

・福井県看護協会 保健師・助産師・看護師実習指導者講習会「精神看護学」と「精神看護学実習の実際」講師および実習指導案作成グループ指導、指導案発表会
（2017年、2018年、2019年）

・平成29年度 福井県精神保健福祉家族会「つつじ会」総会 講師 2017年5月28日開催
- 「家族相談」について-

・医療法人 福仁会病院 院内研修会 講師（2017年～2019年）

- 「精神障害者の理解と支援のあり方」「精神科における看護記録について」-

2017年3月7日開催

- 「看護記録に関する研修会」-2018年3月26日開催

- 「看護記録に関する研修会」-2019年3月27日開催

(2)大学が主体となっている地域貢献活動等

① 公開講座・オープンカレッジの開講

② 社会人・高校生向けの講座

入試説明会 足羽高校 2017年7月13日
大学公開講座 三国高校「知ろう！分かって！看護の魅力と看護師養成課程の特徴」
2018年7月10日

入試説明会 啓新高校 2019年7月17日

③ その他

(3) その他（個人の資格で参加している社会活動等）

6. 大学の管理・運営

(1) 役職（副学長、部局長、学科長）

(2) 委員会・チーム活動

学科内委員

2017年度：倫理小委員会委員、カリキュラム検討委員会委員、学年副担任（3年次生）、卒業研究係

2018年度：修士論文委員（副担当）、カリキュラム検討委員会委員、実習検討委員会委員、学年副担任（4年次生）、卒業研究係、福井県看護協会学会担当（精神看護）

2019年度：教育研究委員会（教職課程部会）、論集編集委員会、学部教務（教職課程担当）、カリキュラム検討委員会、コアカリキュラムモデル会議委員、修士論文委員（主担当）、福井県看護協会役員（精神看護学会）、大学院看護学専攻（博士課程）（仮称）設置プロジェクトチーム委員

(3) 学内行事への参加

(4) その他、自発的活動など